

<参考資料> 拡大・進化する虎ノ門ヒルズエリア

一体的な都市づくりで「国際新都心・グローバルビジネスセンター」を形成

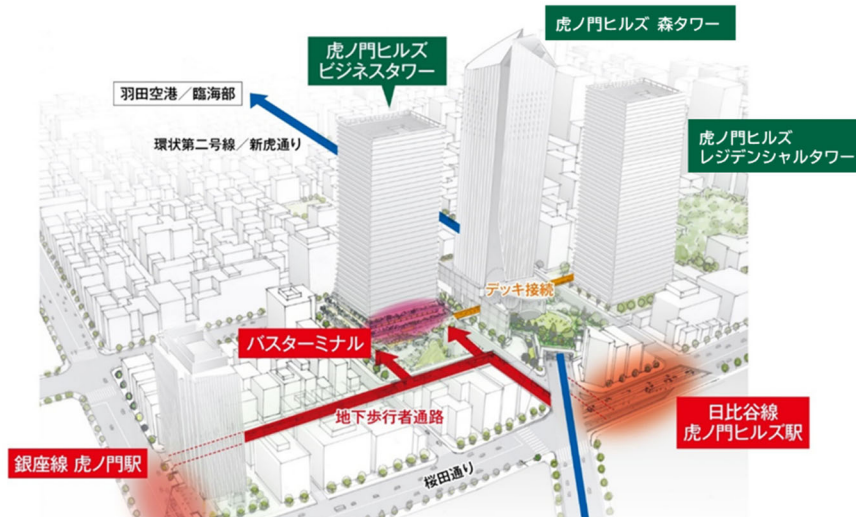
2014年に誕生した「虎ノ門ヒルズ 森タワー」、2020年に誕生した「虎ノ門ヒルズ ビジネスタワー」、このたび竣工した「虎ノ門ヒルズ レジデンシャルタワー」に加えて、現在建設中の東京メトロ日比谷線「虎ノ門ヒルズ駅」と一体開発する「(仮称)虎ノ門ヒルズ ステーションタワー」が加わることで、虎ノ門ヒルズエリアは、区域面積約7.5ha、延床面積約80万㎡に拡大。交通インフラとも一体化した複合都市となり、六本木ヒルズに匹敵するインパクトを与える真の国際新都心へと進みます。





## 「東京の玄関口」となる新たな交通結節点としての虎ノ門ヒルズエリア

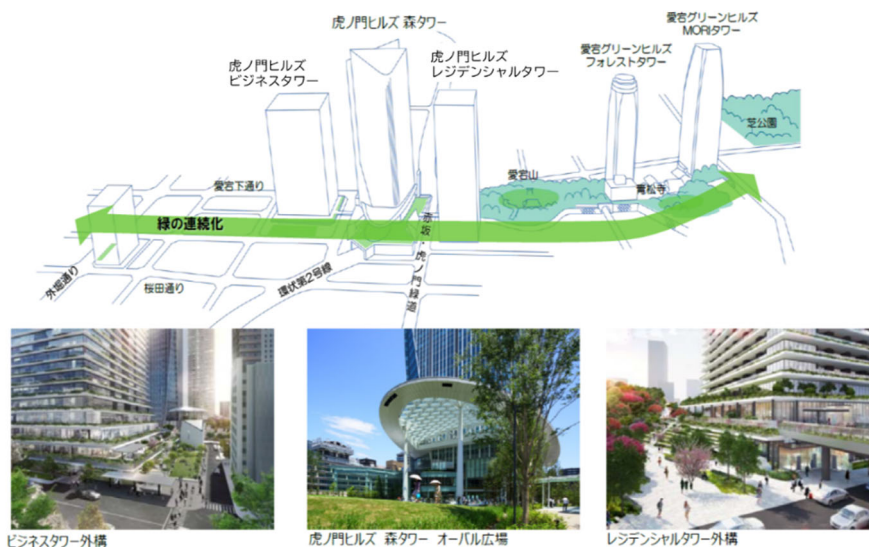
「虎ノ門ヒルズ ビジネスタワー」の1階には、日比谷線「虎ノ門ヒルズ駅」や銀座線「虎ノ門駅」に直結する約1,000 m<sup>2</sup> のバスターミナルがあり、空港リムジンバスや都心と臨海部を結ぶBRT(高速バス輸送システム)の発着場となります。さらに、環状第2号線が全面開通すれば、羽田空港へのアクセスも大幅に向上。加えて、「虎ノ門ヒルズ ビジネスタワー」には、「虎ノ門駅」や「虎ノ門ヒルズ駅」とバリアフリーで繋がる地下歩行者通路や「虎ノ門ヒルズ 森タワー」「虎ノ門ヒルズ レジデンシャルタワー」と接続する歩行者デッキを設置。この歩行者デッキは、「(仮称)虎ノ門ヒルズ ステーションタワー」とも将来的に接続し、虎ノ門ヒルズエリアの回遊性が飛躍的に向上します。環状第2号線とともに誕生した「新虎通り」を含め、エリア全体をつなぐ歩行者ネットワークと、新たな人の流れを創出し、「虎ノ門ヒルズエリア」は、世界と都心部を繋ぐ新たな「東京の玄関口」として機能します。



## 虎ノ門ヒルズエリアをつなぎ、生物多様性を実現する緑

2014年に竣工した「虎ノ門ヒルズ 森タワー」では、約6,000 m<sup>2</sup> の大規模オープンスペースを確保。屋上庭園「オーバル広場」や階段状のテラス「ステップガーデン」などの豊かな緑地空間に加えて、生物多様性に配慮した緑や小川も創出。JHEP 認証(公益財団法人日本生態系協会運営)で最高ランク「AAA」を取得し、オフィスワーカーや地域の方を対象にしたヨガイベント等のコミュニティ形成活動の場としても活用されています。2020年に竣工した「虎ノ門ヒルズ ビジネスタワー」内には、約1,500 m<sup>2</sup> の緑豊かな西桜公園が整備され、さらに「虎ノ門ヒルズ レジデンシャルタワー」の完成により、エリアの低層部の緑が連続し、また隣接する愛宕山や愛宕グリーンヒルズの緑とも緑道でつながり、エリアとエリアをつなぐ新たなグリーンネットワークが創出されます。

また、「虎ノ門ヒルズエリア」全体としては、米国グリーンビルディング協会(USGBC)による国際環境性能認証制度「LEED (Leadership in Energy & Environmental Design)」のエリア開発を対象とした「ND (Neighborhood Development)」カテゴリーにおいて、最高ランクのプラチナ予備認証を取得しています。



## 「(仮称)虎ノ門ヒルズ ステーションタワー」

東京メトロ日比谷線「虎ノ門ヒルズ駅」と一体的に開発する超高層タワー。駅直結の賑わい溢れる開放的な広場に加えて、桜田通り上に歩行者デッキを整備することで、重層的な歩行者ネットワークを実現。虎ノ門エリアの新たな交通結節拠点となります。

地上 49 階建て、高さ約 266m の超高層タワーには、基準階約 1,000 坪のオフィス、広場と一体となった商業施設、国際水準のホテルなどを整備。また、最上部には様々なビジネスイベントに対応するフォーラム、ギャラリー、レストラン等を有する多機能複合施設を配置し、新たなビジネスやイノベーションの発信拠点になることを目指します。



	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
虎ノ門ヒルズ ビジネスタワー	●7月 都市計画決定	→ ●1月 再開発組合設立	→ ●2月 着工			→ ●1月 竣工			
虎ノ門ヒルズ レジデンシャルタワー	●9月 都市計画決定		→ ●3月 着工					→ ●1月 竣工	
(仮称)虎ノ門ヒルズ ステーションタワー				●3月 都市計画 決定	→ ●11月 再開発組合 設立	→ ●11月 着工			→ ●7月 竣工予定
虎ノ門ヒルズ駅						●6月 開業			